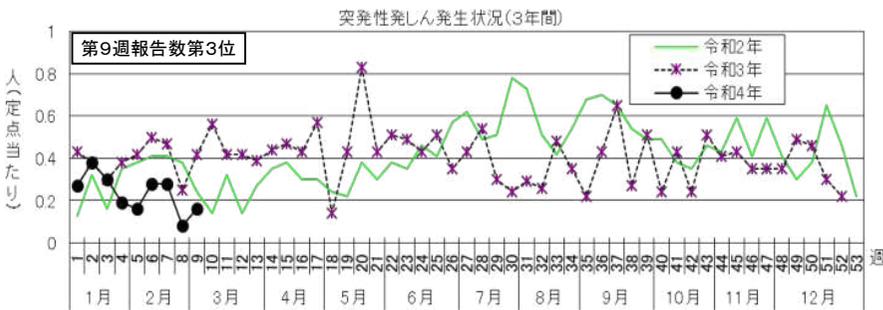
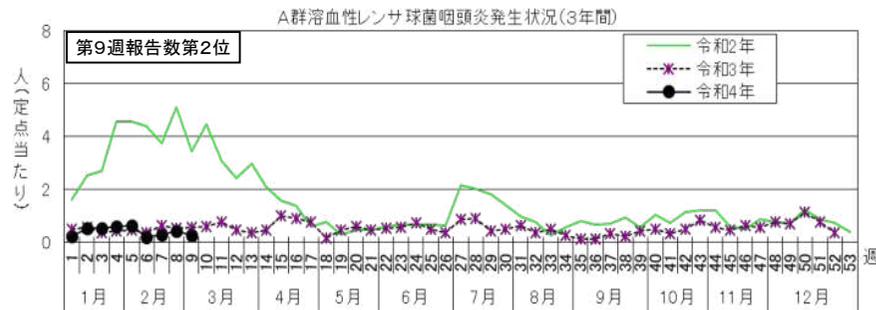
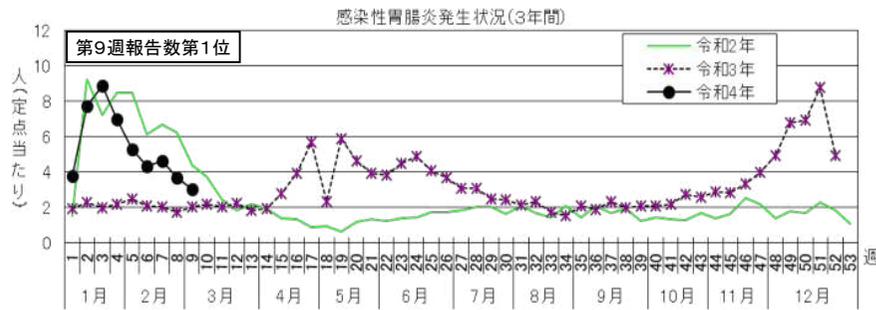


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年2月28日（月）～令和4年3月6日（日）〔令和4年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（3.67人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.42人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.16人と前週（0.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



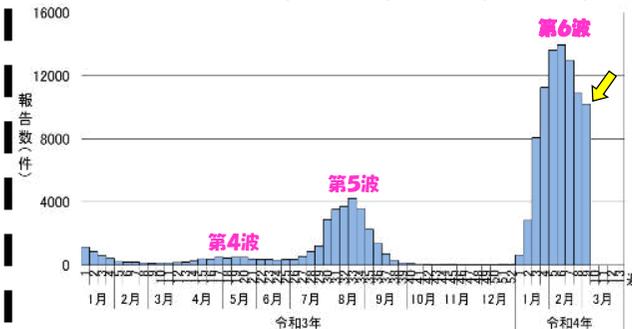
新型コロナウイルス感染症～季節性インフルエンザとの違い～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の令和4年第9週（2月28日～3月6日）の報告数は、10205件と依然として高い水準で推移しており、神奈川県においては、令和4年1月21日から適用されているまん延防止等重点措置が、3月21日まで延長となりました。

現在の流行の主流であるオミクロン株は、従来株と比べて重症者や死亡者の割合が低いといわれていますが、季節性インフルエンザと比較すると、肺炎の発症頻度や致死率が高いことがわかっています。

新型コロナウイルス感染症の発症を防ぐために、手指消毒や正しいマスクの着用などを心がけるとともに、追加接種の接種券が届いた方は、重症化を防ぐために是非接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症
 診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第9週-



オミクロン株による新型コロナウイルス感染症と 季節性インフルエンザの比較

	新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)	季節性インフルエンザ
感染者数	約267万人 (令和4年1月1日～) ※令和4年2月21日現在	数百万人～ 1千数百万人 (1シーズン)
肺炎の発症頻度	5.6%	1.1～2.5%
致死率	約0.13%程度 (令和4年1月1日～) ※令和4年2月21日現在	0.006～0.09%

第74回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料より